

「大人も育つの?!」

60才を折り返して……

—地球市民の書棚から③④

地球市民 大村 昌宏



新年号にふさわしく「学び」「育ち」について考えました。還暦、暦年齢上の「折り返し」点を通してからずいぶん経ちました。「折り返し」たら「マイナスの計算で」と言われました。若いときのようにプラス計算はできないというのです。これに対し確かに肉体的には衰えてきたが「若い時に見えなかったものが見えてきた」、精神年齢は、まだ若い、いや知的には成長し続けると反論してきました。キーワードは、「育ち」と「学び」。以下、対話メモ形式で進めます。

「人生 100 年時代」の「お金」と「頭」

- ・ 「還暦」「定年」になってからの人生が長い。定年後 20 年が諸々の想定だったそうだが、これが 30 年、40 年と伸びる。
- ・ 長生きできるのは素敵なことだが、気になることがある。「頭と心」「お金」だ。
- ・ まず「頭と心」の問題だ。
- ・ 「キレヤスイ高齢者」が増えていると言われている。職場の人間関係だけできた男子に多いようだ。
- ・ 地域社会に溶け込めない。なかなか新しい人間関係をつくれぬ。
- ・ 「シルバー世代」とか「ゴールド世代」とか言い換えられても……。

おとな 「大人が育つ条件」

- ・ 「キレヤスイ高齢者」というが、若者にも多いのではないかな？
- ・ 家族間の感情的もつれが殺人事件になったり、

「死にたい」からと他人を巻き込む「無差別殺人」テロを起こしたり。

- ・ 「大人になれない大人」が増えているということか。
- ・ 少しホットする本に出会った。柏木恵子さんの「おとなが育つ条件」だ。
- ・ 「発達」というと子どものこと、大人になれば「発達」は関係ないと思いがちだが、おとな以降も発達し続ける。成長したのち死に至るまでの一生を研究の対象とした「生涯発達心理学」がある。
- ・ 以前していたことをしなくなる／できなくなる、「消失／衰退」も大人としての変化、発達だと積極的にとらえる。
- ・ 本書では「子どもの知能」と「大人の賢さ」の違い。「感情と人間関係」のこと。「家族の中でのおとなの発達」として「結婚と夫婦関係」。耳が痛い「親になること」「親をすること」。「私はどう生きるか アイデンティティ、生き方、ジェンダー」「幸福感 何がその源泉か」等を取りあげている。